

病害虫情報(第10号)1・2月予報

令和6年12月25日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 1・2月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、促成イチゴ、早春キャベツ、冬ダイコン】
- II 1・2月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 6

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、令和6年12月24日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 1・2月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
縞葉枯病	—	—	❖ 媒介虫であるヒメトビウナカの越冬場所を減らすため次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②冬期～春期の畦畔や休耕田の除草を徹底する。
スクミリンゴガイ	—	△	❖ スクミリンゴガイの生存率を下げるため次の対策を実施する。 ①冬期に水田を複数回耕起すると殺貝効果が高い。耕うん深度は6cm程度の浅起こしで効果が高い。深く耕うんすると生貝を深く埋め込んでしまい、防除効果が低下する恐れがある。耕うんは走行速度を遅くし、ロータリーの回転を速くして浅く細かく耕す。 ②休耕田も発生源になるので、できるだけ①の対策を実施する。 ③未発生水田への貝の持ち込みを防止するため、トラクターなどに付着した泥は使用後に洗浄する。未発生水田の耕起を先に行うなど順番を考慮する。 ④用排水路で生存している貝の対策として泥上げを行う。地域全体で実施すると効果が高い。 ❖ 詳細は以下の防除対策資料を参照すること 神奈川県スクミリンゴガイ防除対策マニュアル https://www.pref.kanagawa.jp/documents/6967/sukumimanyuaru2022.pdf

【カンキツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
ハダニ類 ミカンハダニ	やや少	○	マシン油乳剤(95%, 97%, 98%) 等 ❖ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なるので、ラベルの記載に従うこと。
カイガラムシ類	—	○	❖ 1月中旬までに防除する。ただし、この時期に防除できなかった園では、ハダニ類を対象に収穫後の春期に防除する。 ❖ カイガラムシ類発生園では、冬期の散布を厳守する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和6年度・第10号・1・2月) …… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
灰色かび病	—	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 灰色かび病: 7.5～15g/10a/日、うどんこ病: 15g/10a/日 (予) フルピカフロアブル [前日, 4回] 灰色かび病: 2,000～3,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日, 3回] 2,000～4,000倍 (予・治) ポリオキシシAL水和剤 [前日, 3回] 灰色かび病: 1,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日, 2回] うどんこ病: 2,000倍 (治) ベミデタッチ [前日, -] うどんこ病: 500倍 等 ◆ 近年、4月以降にうどんこ病の発生が目立つ。ほ場内の菌密度を低く抑えるために冬期から防除する。
うどんこ病			
コナジラミ類 タバココナジラミ	—	○	
アブラムシ類	—	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] アザミウマ類: 5,000倍 マッチ乳剤 [前日, 4回] アザミウマ類: 1,000～2,000倍 コナジラミ類: 2,000倍 チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] コナジラミ類、アブラムシ類: 5,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] コナジラミ類、アブラムシ類: 4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] コナジラミ類、アブラムシ類: 300倍 ベミデタッチ [前日, -] コナジラミ類: 500倍 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 等 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。
アザミウマ類	—	○	

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

マルハナバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤: ポリオキシシAL水和剤(1日)、コルト顆粒水和剤(セイヨウオオマルハナバチ3日後、クロマルハナバチ7日後)、スピノエース顆粒水和剤(5,000倍散布: 3日後、2,500倍: 8日後)

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和6年度・第10号・1・2月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成・半促成キュウリ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント										
べと病	—	○	(予)ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予)ジマンダイセン水和剤又はペンコゼブ水和剤 [前日,3回] 600~800倍 (予・治)ランマンフロアブル [前日,4回] 1,000~2,000倍 等 ❖育苗期から薬剤散布を行うと効果が高い。										
うどんこ病	—	○	(予)ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予)インプレッションクリア [発病前~発病初期,-] 1,000~2,000倍 (予・治)ファンベル顆粒水和剤 [前日,3回] 1,000倍 ☞ファンベルは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ❖育苗期から薬剤散布を行うと効果が高い。										
アブラムシ類	—	○	【育苗期:粒剤施用】 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 【育苗期:灌注】 モベントフロアブル [育苗期後半~定植当日,1回:株元灌注] 500倍 アブラムシ類、コナジラミ類:25~50mL/株 アザミウマ類:50mL/株 ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] アブラムシ類:原液25mLを2~20Lに希釈/400株 アザミウマ類、コナジラミ類:原液25mLを10~20Lに希釈/400株 【定植時:粒剤施用】 アドマイヤー1粒剤 [定植時,1回] アブラムシ類、アザミウマ類:1~2g/株(植穴又は株元土壌混和) コナジラミ類: 2g/株(植穴土壌混和) 【育苗期~定植後:散布】 ダントツ水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ: 2,000~4,000倍 アフーム乳剤 [前日,2回] アザミウマ類、コナジラミ類:2,000倍 等 ❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。										
コナジラミ類	—	○											
アザミウマ類	—	○											
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)		MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)													
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												
			<ul style="list-style-type: none"> ❖ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、特に出入口は二重被覆にすることで害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。 ❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ❖ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。 ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。 										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和6年度・第10号・1・2月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
灰色かび病	並	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 灰色かび病: 10～15g/10a/日、うどんこ病: 15g/10a/日
うどんこ病	やや少	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日(生育期), 5回] 灰色かび病: 2,000倍、うどんこ病: 2,000～4,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日, 4回] 灰色かび病: 1,500倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 (治) カリグリーン [前日, -] 灰色かび病: 800倍、うどんこ病: 800～1,000倍 (治) エコピタ液剤 [前日, -] うどんこ病: 100倍 等
アブラムシ類	やや少	○	ウララDF [前日, 2回] アブラムシ類: 2,000～4,000倍、コナジラミ類: 2,000倍
コナジラミ類 オンシツ コナジラミ	やや少	○	マッチ乳剤 [前日, 4回] アザミウマ類: 1,000～2,000倍 粘着くん液剤 [前日, -] アブラムシ類、コナジラミ類: 100倍 エコピタ液剤 [前日, -] アブラムシ類: 100倍 コナジラミ類: 100～200倍
タバコ コナジラミ	並	○	サンクリスタル乳剤 [前日, -] アブラムシ類、コナジラミ類: 300倍
アザミウマ類	並	○	サフオイル乳剤 [前日, -] アブラムシ類: 300～500倍 コナジラミ類: 300倍 等
ハダニ類	並	○	ダニコングフロアブル [前日, 1回] 3,000倍 粘着くん液剤 [前日, -] 100倍 エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 サフオイル乳剤 [前日, -] 300～500倍 等 ❖ ハダニ類に関する防除情報を令和6年12月5日に発表している。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認する。
- ▶ 影響のある剤: ロブラール水和剤(1日)、エコピタ液剤(1日)、粘着くん液剤(1日)、ダニコングフロアブル(1日)

病害虫情報

(令和6年度・第10号・1・2月) …………… 神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【早春キャベツ】

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
黒腐病	並	○	(予・治) カセット水和剤 [7日,3回] 1,000倍 ☞ カセットは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) バリダシン液剤5 [7日,5回] 800倍 等
菌核病	並	○	(予・治) ロブラー水和水剤 [7日,4回] 菌核病:1,000倍 (予・治) ゲッター水和水剤 [7日,2回] 菌核病:1,500倍 ☞ ゲッターは混合剤。総使用回数に注意する。
灰色かび病	並	○	(予・治) ファンタジスタ顆粒水和水剤 [3日,3回] 2,000~3,000倍 等 ❖ 春キャベツへの感染を防ぐためにも、発病株は菌核が形成される前に除去しほ場で処分する。
アブラムシ類	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [3日,2回] 2,000~3,000倍 ウララDF [前日,2回] 2,000~3,000倍 等
コナガ	やや少	○	アフーム乳剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 エスマルクDF [発生初期(ただし前日),-] 1,000~2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【冬ダイコン】

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
黒斑細菌病	やや少	○	(予) Zボルドー [-,-] 500倍 (予) ヨネポン水和水剤 [7日,4回] 500倍 等 ❖ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。
アブラムシ類	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [7日,2回] 2,000~3,000倍 ウララDF [前日,2回] 2,000倍 等
コナガ	やや少	○	アフーム乳剤 [7日,3回] 1,000~2,000倍 エスマルクDF [発生初期(ただし前日),-] 1,000~2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和6年度・第10号・1・2月)

..... 神奈川県農業技術センター

II 1・2月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 1・2月の気象予報(気象庁12月24日発表3か月予報)

〈天 気〉

- 1月 平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- 2月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1月	気 温	40%	40%	20%
	降 水 量	40%	40%	20%
2月	気 温	30%	40%	30%
	降 水 量	40%	30%	30%

(2) 1・2月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	-	やや少	1) 県予察ほ(根府川)では、無防除区で発生が平年並(±)、慣行防除区で発生が平年より少ない(-)。 2) 10月の巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 3) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)
促成イチゴ	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(-) 2) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(-) 2) 県予察ほ(平塚)の黄色水盤への飛来は、平年並。(±) 3) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	やや少 並	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生は平年より少なく(-)、タバココナジラミの発生は平年並(±)。 2) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)
	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(-) 2) 青色粘着板(平塚、大磯)への捕殺虫数は、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマともに平年並。(±) 3) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (-): 少発要因

病害虫情報

(令和6年度・第10号・1・2月) 神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
早春 キャベツ	黒腐病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)
	菌核病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)
	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来数は、平年よりやや多い。(＋) 3) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少なく、県予察ほ(三浦)では平年より少ない。(－) 3) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)
冬ダイコン	黒斑細菌病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)
	ナモグリバエ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色粘着板への成虫誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来数は、平年よりやや多い。(＋) 3) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少なく、県予察ほ(三浦)では平年より少ない。(－) 3) 1月の気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ない予報。2月の気温、降水量はともに平年並の予報。(±)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……………(＋):多発要因 (－):少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス、ネクスター、パレード20)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェステイバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロベリー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回